

子馬の取り扱い・離乳

JRA日高育成牧場
専門役(生産担当)
遠藤 祥郎



子馬の取扱い

離乳前までに実施すること

- ① 引き馬
- ② 駐立
- ③ 手入れ
- ④ 肢上げ(裏掘り、装削蹄)

離乳前に実施すること



引き馬



駐立



手入れ



肢上げ

① 引き馬

① 引き馬

- 子馬の引き馬のポイント
 - ✓ 生後から「引き馬」における人と馬の位置関係に慣れさせる
 - ✓ 「オン」と「オフ」を用いてスピードをコントロールする
 - ✓ 馬自身のバランスで歩かせる



出産直後



1週間後

①引き馬

- 出産直後の引き馬



1名が母馬を引きながら、子馬の頸に手をかけて、補助者が子馬の臀部を持ち上げるようにして前進させる。

①引き馬

- 出産直後の引き馬



補助者は、必要な場合に子馬に後方からのプレッシャーをかけて前進を促す

①引き馬

- 出産直後の引き馬



子馬がある程度歩くようになったら、補助者は基本的に子馬に触れず、立ち止まった時のためのサポートのみに徹する

①引き馬

- 2週齢を目安に徐々に1人で親子の引き馬を行う。



①引き馬

- ポイント！！
 - 「オン」と「オフ」によるスピードコントロール
 - 子馬自身のバランスで歩かせる



①引き馬

- オンとオフ
 - ⇒オン: プレッシャーをかけて前に促す
 - ⇒オフ: 前進してくれたら、何もしない



左: 肋部後方の軽打(プレッシャー)によって推進
右: 右腕での頸の保持(プレッシャー・オフ)

①引き馬

- 子馬自身のバランスで歩かせる



①引き馬

- 子馬が前進しない時



右手で臀部や肋部を軽く叩く(パッティング)もしくは押す

14

①引き馬

- 子馬が前進しない時



右手で臀部や肋部を軽く叩く(パッティング)もしくは押す

15

①引き馬

- 子馬が前進しない時



右足で合図を送る

16

①引き馬

- 子馬が前進しない時



子馬を軸にして回転させる

17

①引き馬

- 子馬の保持に対する強いこだわりは必要ない。
- 手から離れた場合であっても、子馬は必ず母馬についていくので、あわてず、じっくり時間をかけて理解させる。
- 母馬に必ずついて来る時期に、子馬に人に従うことを教える。



18

リードの使用

リード使用の目安は、生後2ヶ月以降



19

リードの使用

リード使用の目安は、生後2ヶ月以降



20

リードの使用

リードは止め具のない1本のロープ
鼻革の下で折り返して2本の余端を保持



21

リードの使用

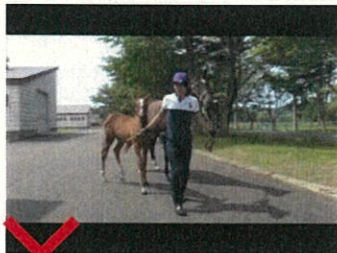
クリップ付のリードを使用しない！



22

①引き馬

リードは引っ張らずに、合図・スピード調節に使用する。



リードを引っ張る引き方

23

①引き馬

リードは引っ張らずに、合図・スピード調節に使用する。



24

オマケ) 米国流子馬の引き方



新生子馬は、引き手を後ろに回し
後軀を持ち上げるようにして歩かせる



一人で母子を引く場合は、母馬が右・
子馬が真ん中・人が左
(両手で子馬を扱える)

米国流子馬の引き方(動画)



② 駐立

② 駐立

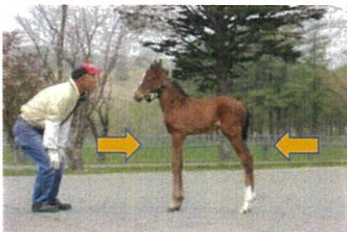
- 生後から写真撮影を実施



7日齢

② 駐立

- まず立たせる⇒立ったらオフ
- 前後からプレッシャーをかける



7日齢

② 駐立

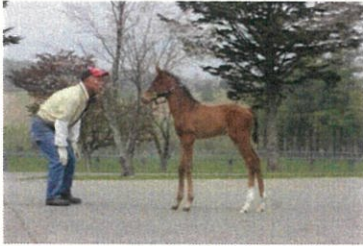
- まず立たせる⇒立ったらオフ
- 最初は肢の位置にこだわらない



7日齢

②駐立

「じっと立つ」と「肢を揃える」
⇒両方一度には教えられない



7日齢

②駐立

- まず立たせる⇒立ったらオフ
- 肢が揃うまで待つ



7日齢

②駐立

- 駐立写真の完成



7日齢

②駐立

- 様々な環境に慣れさせる



当歳品評会



月例の馬体検査



小学生の見学



バスツアー

③手入れ

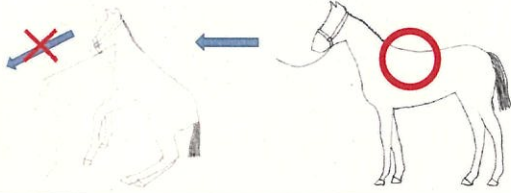
③張り馬での手入れ

- 張り馬の馴致開始＝離乳後
- 最初は長めのリードを使用
- 壁のリングを通し、人が保持する



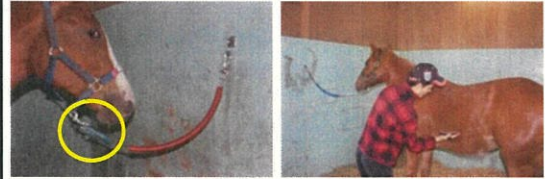
③張り馬での手入れ

- 張り馬の馴致
 - ✓後退時には引っ張らない!
 - ✓後方からプレッシャーをかけて、駐立したらオフ!



③張り馬での手入れ

- 慣れてきたら、タイチェーンを使用

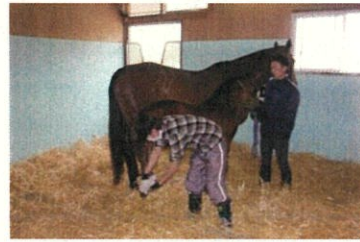


馬側の段端にはナイロン紐を装着し、外傷・馬具破損を予防

④肢上げ

④肢上げ

- 裏掘りは、生後からほぼ毎日実施



④肢上げ

- 生まれて間もない時の削蹄は、馬房のコーナーを利用
- 壁と母馬を利用して、面で保定する



前肢の削蹄は、お尻をコーナーに



後肢の削蹄は、頭をコーナーに

離乳

- 哺乳期の動物の栄養を、乳汁から固形物へ移行させること。



離乳の目的

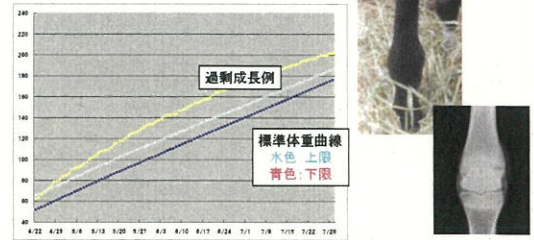
- 次の出産の準備
- 十分量の母乳を次の子馬に与えるため



野生環境では9-10ヶ月齢(年明け)少なくとも分娩1ヶ月前には離乳し
出産後の哺乳に備える

離乳の目的

- 飼料でのコントロール(過剰成長によるDODの予防)
- 母馬の乳量が多い場合



実施時期および目安

一般的には、5~6ヶ月齢

目安

- ①5~6ヶ月齢(早くても4ヶ月齢以降)
- ②体重220kg
- ③1~1.5kgの飼料摂取

あくまで目安であり、子馬の状態・環境による

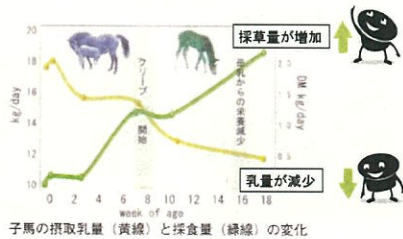
実施時期および目安

- 栄養面の離乳
- 精神面の離乳

この2点を考慮し、実施時期をきめる

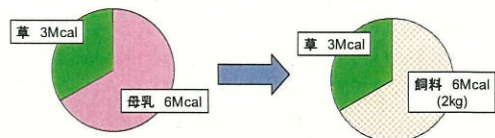
実施時期および目安(栄養面)

ある程度の量の飼料摂取が可能となる



実施時期および目安(栄養面)

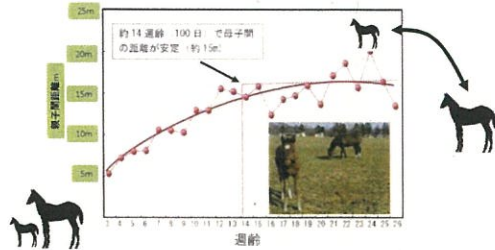
4ヶ月齢のカロリー要求量=9Mcal(1日あたり)



少なくとも1~1.5kgの固形飼料の摂取が可能

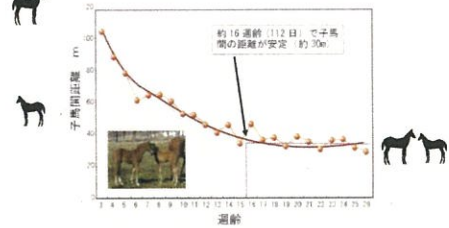
実施時期および目安(精神面)

親子間の距離が増加=約3ヶ月



実施時期および目安(精神面)

子馬間の距離が縮小=約3ヶ月



精神的な離乳=約3ヶ月

実施時期および目安

以上は、あくまで目安

- 馬の状態、環境(気温、天候、アブなど)を見極める必要がある。

他の牧場では

- 概ね5~6ヶ月齢以降、早い場合は3ヶ月齢

実施方法

以前は...

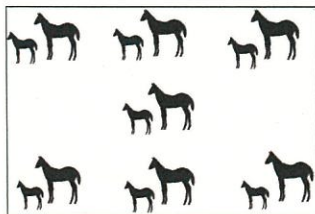
母馬の飼育環境は変更せずに、子馬を離れた厩舎に移動

- 母乳が飲めなくなることによる栄養低下
- 母馬と離れるストレス
- 環境が変わることによるストレス

3つの要因により
離乳直後に、体重が大きく減少するリスク

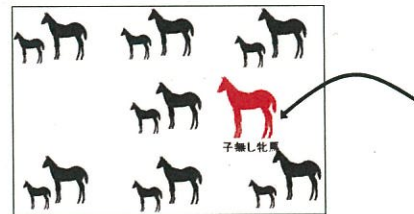
「間引き法」

- 子馬の飼育環境は変更せずに、母馬を移動
- コンパニオンホースの導入



多頭数の放牧群

「間引き法」 事前に「子無し牝馬」を導入

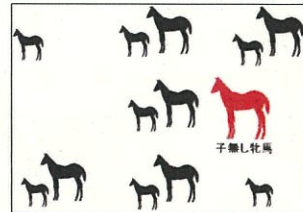


多頭数の放牧群

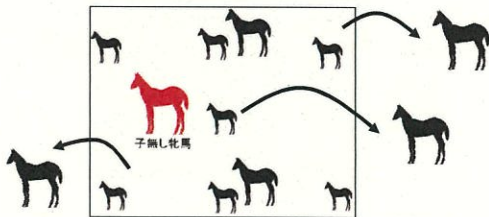
「間引き法」1週目:2頭間引く



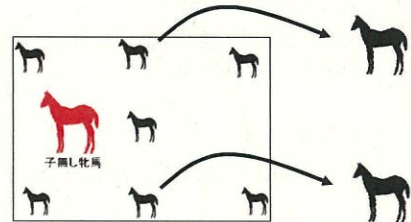
「間引き法」1週目:2頭間引く



「間引き法」2週目:3頭間引く



「間引き法」3週目:2頭間引く



コンパニオンホース



実施方法

成馬・すでに離乳して落ち着いた子馬がいるため、子馬は群のなかで落ち着くことができる。

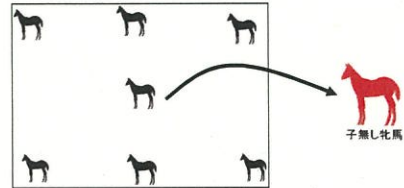
- ・母乳が飲めなくなることによる栄養低下
- ・母馬と離れるストレス
- ・環境が変わることによるストレス

2つのリスクが軽減

多頭数の放牧群

実施方法

群が落ち着いた頃に牝馬を移動



多頭数の放牧群

離乳のリスク

- ・ストレス(食欲不振、疾病、悪癖の原因となる)
- ・成長停滞
- ・事故



離乳時の注意事項

- ・子馬の環境を変化させない
- ・飼料を1~1.5kgは食べさせておく
 - 成長停滞予防
- ・離乳直後の監視
 - 事故抑制
- ・環境に留意する
 - 気温、アブ、牧草

Darby Dan Farm (KY)

米国の伝統的な離乳方法



子馬を馬房に残す



母馬を引いて別の放牧地へ



子馬を馬房に残し、母馬を引いて別の放牧地に移動させる

Darby Dan Farm (KY)

(離乳を理解する前に)種付



- 子馬を馬房内に置いて、母馬のみ種馬場に行く
- 輸送業者が連れて行く(牧場スタッフは立ち会わない)
- 掃厩時は最初の授乳まで母馬を保定する(母馬が蹴ることがある)
- 出発から掃厩まで1.5~2時間

